

テルモ社製腹膜透析カテーテル接続チューブの劣化に関する検討へのご協力をお願い

テルモ社製の腹膜透析システムでは患者さんの体内に埋め込まれたチューブと腹膜透析液のチューブの接続に無菌接合方式が利用されています。本方式は無菌接合の面から極めて有効な方法ですが、一部の患者さんではチューブが急速に劣化して強度が低下し、無菌接続時に不完全な接合により小孔が形成されるようなケースが報告されています。その頻度は200人中3人程度(1.4%)ですが、どのような人でチューブの劣化が進み、どこまで劣化が進むとチューブの接続が不完全となるのかは明らかになっていません。

当院ではこのような事例への対策として、テルモ社と協力し、チューブの劣化具合をチューブ留置、あるいは交換後1、3、6カ月後の時点で調べさせていただくことにしました。これにより劣化が進んだチューブは早めに交換することで接続不良などを未然に防げればと考えております。チューブの劣化・強度調査はテルモ社にて無償で行えます。また日々の診療で得た皆様の臨床データと劣化の関連性を調べることにより劣化の要因、機序を明らかにできればと考えております。

特別な検査等はありませんので、新たな身体的・経済的負担もありません。得られた結果につきましては研究会、学会、論文等で公表することもあります。その際は皆さま方個人を特定できるような個人情報には開示しません。また研究へご同意いただけない場合も診療自体は何ら変わりなく、不利益を被ることはありません。主旨をご理解の上、何卒ご協力いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

2017年1月31日

JAとりで総合医療センター腎センター長 前田益孝

TEL: 0297-74-5551

FAX: 0297-74-2721